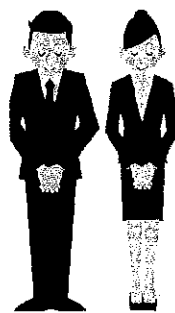


こたま

第47号 (2022年4月)
発行 九鬼コミュニティセンター
電話 0597-29-2164

日頃は、コミュニケーション活動に、多大なご協力・参加を賜り厚く御礼申し上げます。



〈お願い〉

引き続き、コロナウイルス感染予防のため、3密(密閉・密集・密接)を避け手洗いと手指消毒・マスクを着用し換気に注意してご利用していただきますようお願い致します。

参加者募集

令和4年度 教室

①ヨカ教室

・年5回 (第2木曜日)

午後1時30分

②パッチワーク教室

・年5回 (第4金曜日)

午後1時30分

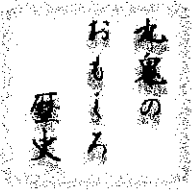
③介護予防体操教室

・年5回 (第3火曜日)

午前10時



令和4年度の九鬼文化展の日程については、運営委員会にて決定致します。



国鉄バスがやってきた

尾鷲市史によると、九鬼村では尾鷲への車道建設を早くから熱望していた。

昭和七年(1932年)農林省は農山漁村の振興策として、農林道を布設することになったので、九鬼村では県に強く陳情した。その結果、九鬼と尾鷲間に「八鬼山県営林道」を開設することが決定した。

名古、桃木谷、九鬼峠、白浜、行野(松本)に至るコースである。行野と尾鷲間は既設の道路を活用するとした。そして昭和七年十一月に県直轄工事として起工され、昭和八年八月に延長四キロメートル、三メートルの道が九鬼峠まで完成した。工事費二万四千四百円で、県と国が七割五分、九鬼二割五分

の負担であった。九鬼峠と行野間は尾鷲領で、話し合いにより尾鷲町二万円、九鬼村四万円を負担することで工事の希望をした。県は九万円の手算で工事をすぐ着工する予定であったが、種々の事情で延期となった。

昭和十二年(1937年)になって九鬼と行野間は竣工し、全線開通した。当初予定の九鬼村負担金は三倍の十二万円となった。

この林道はトンネルはなく、全長二十キロメートル、巾三、四メートルで橋は全部コンクリート製、また熊野灘を眼下に見下ろす景色はすばらしく、観光道路として期待された。しかし中国、アメリカとの戦争で放置され放題となった。

その後、昭和二十六年(1951年)修繕改修され、県道になり、十月五日国鉄バスが尾鷲駅と九鬼間を一時間半

かかって運行し、昭和三十二年一月十二日の鉄道開通まで続いた。

しらはま停留所



国鉄バス 宮崎屋旅館前

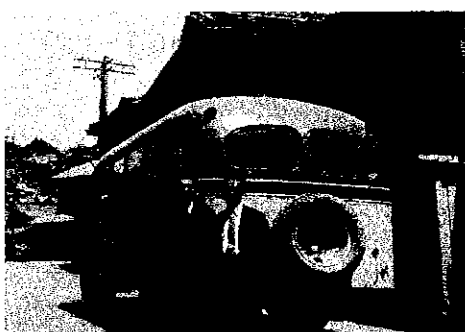


写真 川上石右衛門氏撮影